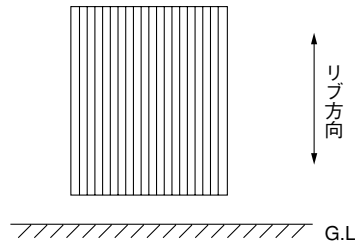


5. ポリカツインフリーの施工法

5-1 方向性



原則として、ポリカツインフリーのリップがGLに
対し垂直方向になるようご使用下さい。

5-2 固定方法

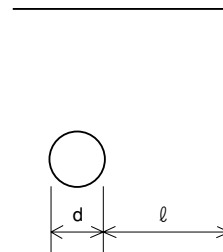
(1) ボルト止め間隔

ボルト止め間隔は300mm以内とします。押縁を使用する時はその材質に応じボルト間
隔を大きくしても差しつかえありません。

(2) ボルト穴の位置

ボルト穴端から板端までの距離 ℓ は
穴径 d の2倍以上が必要です。又、熱によ
る伸縮を考慮し、ボルト径より3~5mm
程大きいルーズホールにします。

$$\ell \geq 2d$$

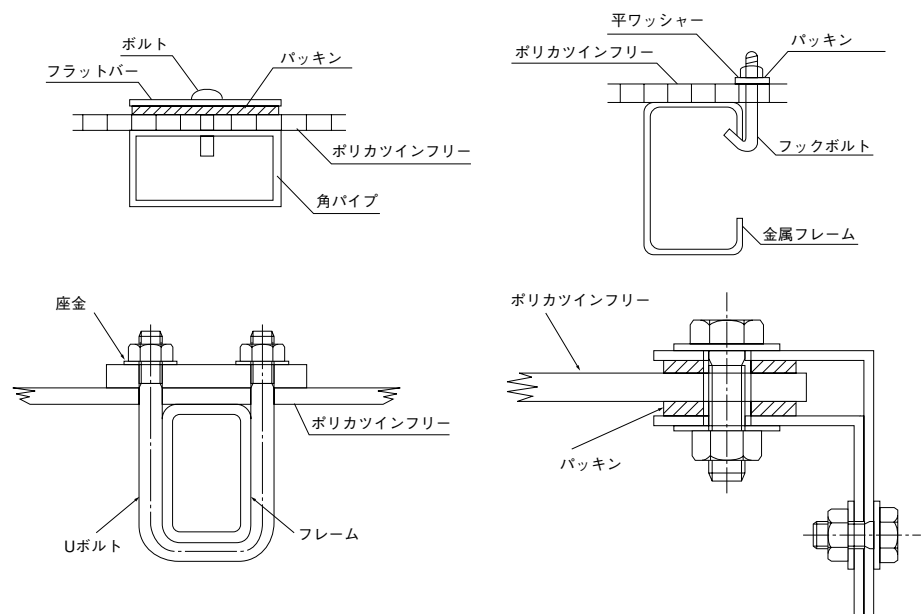


(3) ボルトの固定方法

ポリカツインフリーは中空構造になっている為、必ずポリカツインフリーの両側、もしくは片
側にパッキンを使用し、ボルトを締め過ぎない様にする必要があります。又、ワッシャーやフラッ
トバーで応力の分散を図る事も必要です。パッキンは可塑剤の移行が無い物を使用します。

推奨のパッキン……(7)パッキン、シーリング材参照

ボルト固定での施工例



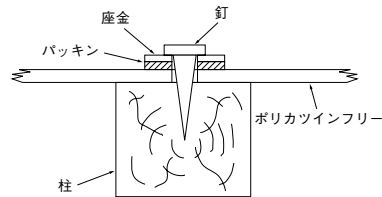
(4) 釘打ち（ラフな施工の場合）

ポリカッインフリーは釘による施工も可能ですが、その際もルーズホールをあけ、ワッシャーやパッキンを使用し、打ち込み過ぎないように注意します。釘打ち間隔は200mm以内とします。

釘……アルミ釘、ステンレス釘、亜鉛メッキ釘

推奨のパッキン……(7)パッキン、シーリング材参照

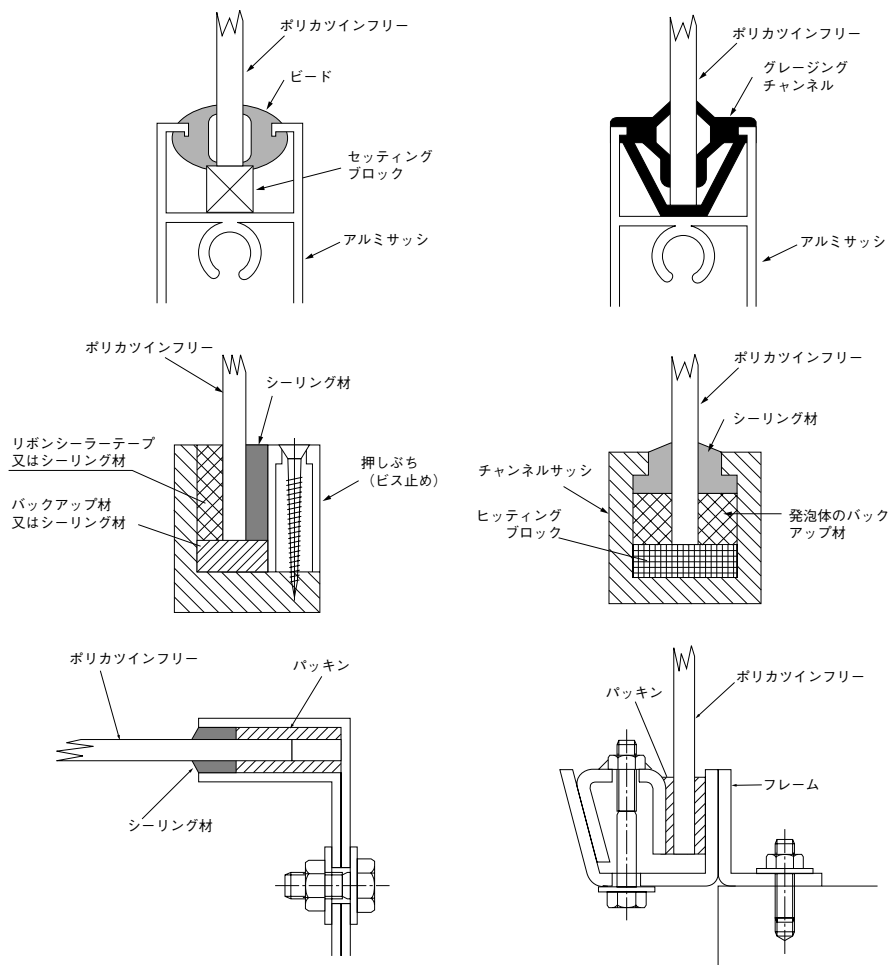
釘打ちの施工例



(5) Aℓ サッシ押縁による施工

- ① 塩ビ製のグレージングチャンネルやビードは可塑剤が移行してポリカッインフリーを侵す場合があるので、EPDMやEPT製の物を使用する必要があります。
- ② ポリカッインフリーが外力を受けた時にサッシからはずれないように、のみ込み代を大きくとる必要があります。

Aℓ サッシ、押縁等による施工例



(6) 線膨張対策（さし込みの場合）

ポリカッインフリーは10℃の温度変化があると1mの長さにつき、約0.7mmの伸縮がありますので、それを考慮して施工する必要があります。

表8. 用途別の伸縮長さ

	温度変化 (℃)	伸縮長さ (mm/m)
屋内用途	20	1.4
被覆・ガラスの代用	40	2.8
屋外用途	70	4.9

(7) パッキン、シーリング材

ポリカッインフリーには、次の材質のものが最も適しています。

表9. 使用可能なパッキン・シーリング材

	材 質	品名（製造会社）	備 考
パッキン	EPDM	エプトシーラー #681. #682. #686 (日東電工(株))	(ポリカエースではセッティングブロックとして推奨) PVCの使用は避ける
	ウレタン	コンプリフォーム (日東紡(株))	
シーリング材	シリコン (アルコールタイプ)	SE-960シーラント (東レ・ダウコーニング(株)) トスシール #380 (モメンティブ・パフォーマンス・マテリアルズ・ジャパン合同会社) シーラント #72 (信越化学工業(株))	オキシムタイプや酢酸タイプの使用は避ける

(シーリング材を使用する場合のプライマー処理は不要です。上記以外をご使用の際は、ご相談下さい)

5-3 断面シール

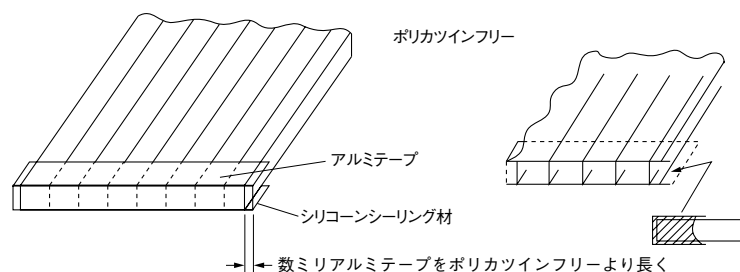
ポリカッインフリーの内部へゴミや水が侵入するのを防ぎ、保温効果を上げる為にポリカッインフリーの開口端はシールしなければなりません。その場合の方法としては下記の方法があります。

(1) テープシール

ポリカッインフリーの内部のゴミ付着のみを防ぐには簡易的にアルミテープ、又はポリエステルテープを貼る方法があります。

しかし、水密性が充分ではなく、完全水密シール法としては、次の方法をお奨めします。

下図のように、アルミテープ（日東電工(株)製 AT-50）をポリカッインフリー断面に貼り、シリコンシーリング材を左右両端に充填します。アルミテープは貼り合せ後、ネル等を巻きつけた木片で充分にシワをのばして下さい。

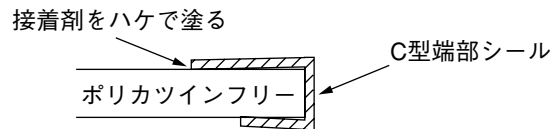


(2) C型端部シール

ポリカツインフリー用補材C型端部シールを使用して下さい。

必要であれば、接着剤C-1000Dをうすくハケ塗りし、接着を行ないます。

(参考図)

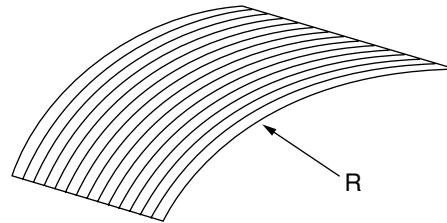


10.0mm厚には9.0mm厚用端部シールをご使用下さい。

5-4 強制曲げ

ポリカツインフリーは強制による曲面施工が出来ます。但し、リブに平行方向の曲面施工は不可です。

安全曲率半径
…板厚の200倍R以上

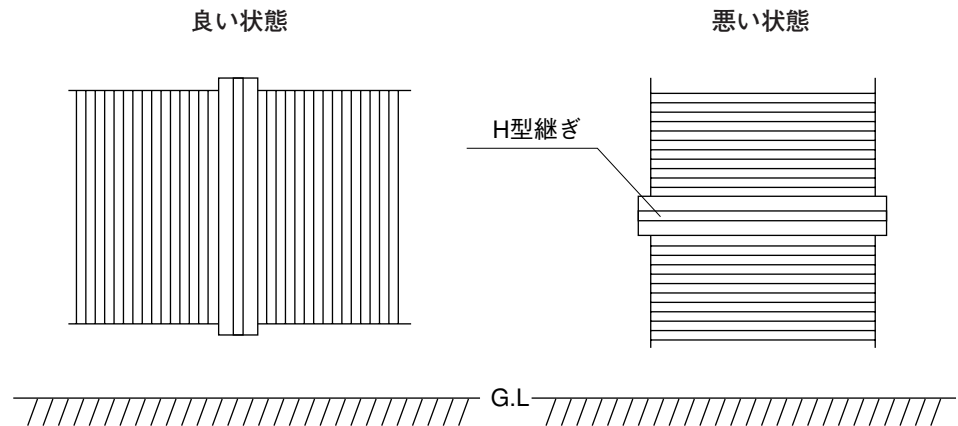


尚、上記以下の曲率半径で使われる場合は、熱加工をして下さい。
(詳しくは、熱加工の項を参照して下さい。)

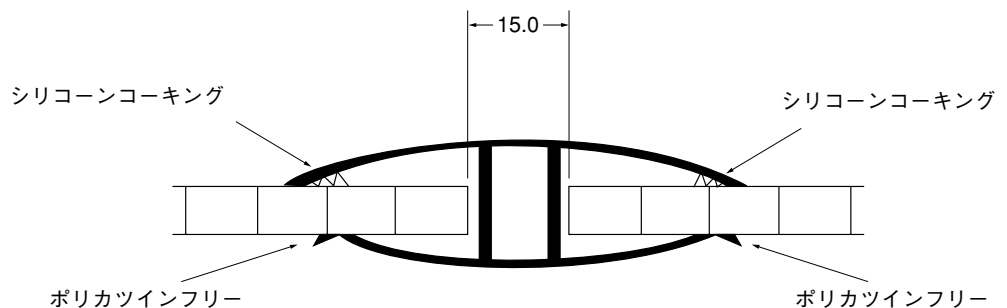
5-5 継ぎ施工

(1) H型継ぎの利用

ポリカツインフリー同士の連結方法の一つとしてH型継ぎがありますが、屋外で使用する場合は方向性に注意して下さい。右下図のようにすると継ぎ部分に汚れが付着しやすくなります。

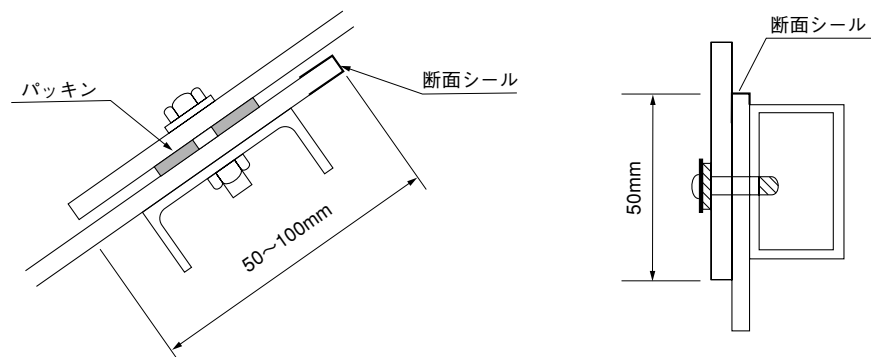


H型継ぎを利用した場合の取付状態



10.0mm厚には9.0mm用H型つなぎをご使用下さい。

(2) 重ね継ぎ施工方法

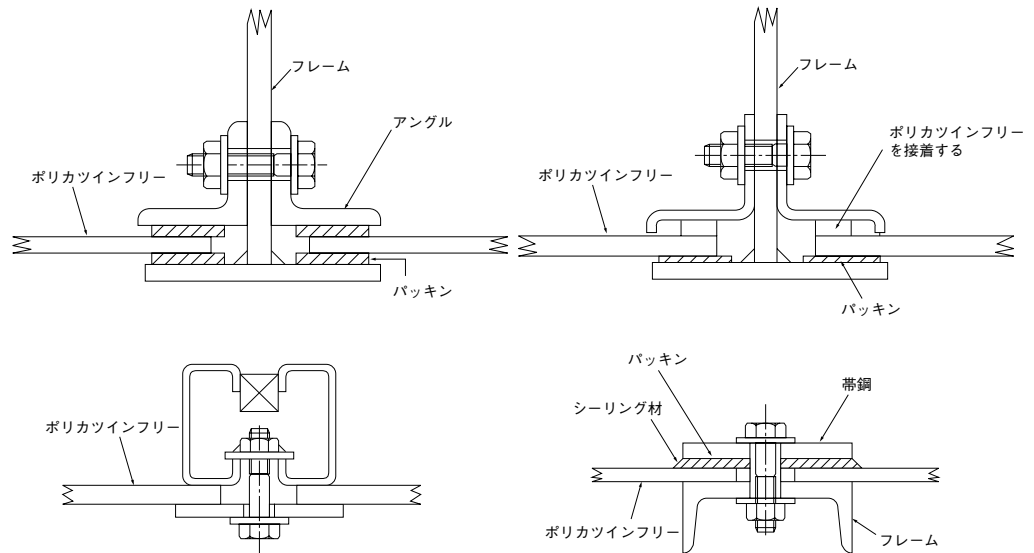


傾斜の度合により異なりますが、通常50~100mmの重ね代が適当です。但し、あまり傾斜が緩やかなものについては、重ね代を150mm以上とるか、コンプリフォーム等のパッキンにより水密工法を行う必要があります。

(3) その他継ぎ施工方法

H型継ぎや重ね継ぎ以外にもフレーム等を用いた継ぎ施工が可能です。

その他継ぎ方の施工例



5-6 クリーニング

- (1) ポリカッインフリーの表面は、柔らかい布、またはスポンジを用いて、ぬるま湯で薄めた中性洗剤で洗浄し、最後にきれいな水で洗い流します。
(中性洗剤を薄める濃度は、各中性洗剤の標準使用方法に従ってください。)
- (2) 万一、塗料、グリース、シーリング材などで汚れた場合は、付着直後ないしは乾燥前であればノルマルヘキサンを柔らかい布に湿らせて拭き取ってください。
乾燥後の汚れ除去は困難ですので注意してください。

注 意

ポリカッインフリーは応力の存在する状態で溶剤を接触させると、通常は問題のない溶剤でもクレーズング(表面の細かいヒビ割れ)やクラックを発生させることがあります。よって、直射日光下や強制曲げ施工のように応力のかかっている状態では、ノルマヘキサンを含め溶剤の使用は避けてください。なお、アセトン・トルエン・シンナー類は絶対に使用しないでください。